

特定非営利活動法人分析産業人ネット

第 17 期活動報告

令和2年度

2020.4～2021.3

令和2年度の活動概要

全体の状況

2020年度は年度開始の4月にCovid-19感染症の蔓延を防止するために全国に緊急事態宣言が発出され、5月中旬に宣言は解除されたものの、その後、第2波、第3波と感染症の広がりが繰り返された1年となりました。このために、一部の事業活動が制約を受けましたが、幸い対面で行う必要のない通信講座やインターネットを活用する通信販売は活動を継続して行うことが出来たため前年並みの成果を得ることが出来ました。また、感染症流行の終焉後に実績の向上を可能とするため、5月に検査分析士会ホームページを一新し、分析産業人ネットのホームページのページの追加と内容の変更を行いました。

事業活動の概要

人材育成事業では、対面で行う講習会の開催は出来ませんでした。通信講座は受講者が増加したため、スクール事業の合計受講者数は前年並みとなりました。また予定した講座の改定は延期しました。毎年7月に全国一斉に行う検査分析士資格認定試験の受講者は感染症流行を防止するための外出の自粛により大幅な減少となった一方で団体試験による受講者数は増加しました。振興普及事業では、マーケティング支援を行う展示会は毎年出展する3つの展示会の内、CPhI展が中止、Pittconがバーチャル展示会となり充分は活動が出来ませんでした。通信販売事業では昨年、販売が伸びた学習用の光度計は、必要とする授業が行われなかったために受注がありませんでしたが、一方でラボ用消耗品が売り上げを伸ばしました。

社会貢献活動の概要

社会貢献事業は、昨年に引き続き、日本では機器分析に関するナーチャー賞エッセイコンテストの開催、海外への支援は現地へ行けませんでしたタイ国の泰日工業大学の学生への奨学金の提供と日本語スピーチコンテストの支援、日本語教育を行う先生用の図書の贈呈を行い、マレーシア日本国際工学院に対する日本語スピーチコンテストの支援をインターネットを活用して継続して実施しました。

今期のトピックス

検査分析士会ホームページの一新(2020年5月)

検査分析士資格認定制度による全国一斉の試験は令和2年で14年回目となりました。合格者が入会出来る検査分析士会の会員は毎年多くの方が入会をするものの長続きがしない方も多いたが、実情です。このため、次年度より検査分析士会会員を対象とした奨励制度を導入するために、それに対応し、内容も充実させたホームページに一新しました。新しいホームページはネット環境の変化等を踏まえて、スマートフォン画面に対応できる形式にしました。

テレビドラマに検査分析士が登場(2020年7月)

2020年6月から8月にかけて水曜日の夜、日本テレビで放映されたテレビドラマ「派遣の品格」の第5話で篠原涼子が演じる主人公の大前春子が検査分析士の資格を駆使して活躍をする様が放映されました。検査分析士というフレーズが出たのは一瞬に近い時間でしたが、このようなドラマで検査分析士の資格が使われるほど存在感が高まったことに対して皆様に感謝を致します。

PAI-NET WAY の設定(2021年3月)

2004年にNPO法人として設立された分析産業人ネットは会員による無償のボランティア活動により活動を行ってきました。しかし、発足して既に15年余が経ち、発足当時の定年退職後にそれまでの経験や習得した知識を生かした活動で社会に貢献するというモデルが成り立たなくなりました。そこで今後は広く年齢に捉われずに共に活動できる人材を広く探すことにしました。そこで募集にあたり、今ま

での当法人の特徴であるボランティアベースの活動を踏まえて、当法人の活動方針として5項目からなる「PAI-NET WAY」を定めました。

分析産業人ネットの活動指針

(Action Guidelines for PAI-NET Members)

1. 自発的な精神で活動
Volunteer spirit
2. パートナーシップによる活動
Partnership
3. 継続する活動
Continuation
4. 創意工夫による効果的な活動
Innovation oriented
5. 無償または最小の報酬での活動
Free or minimal monetary compensation

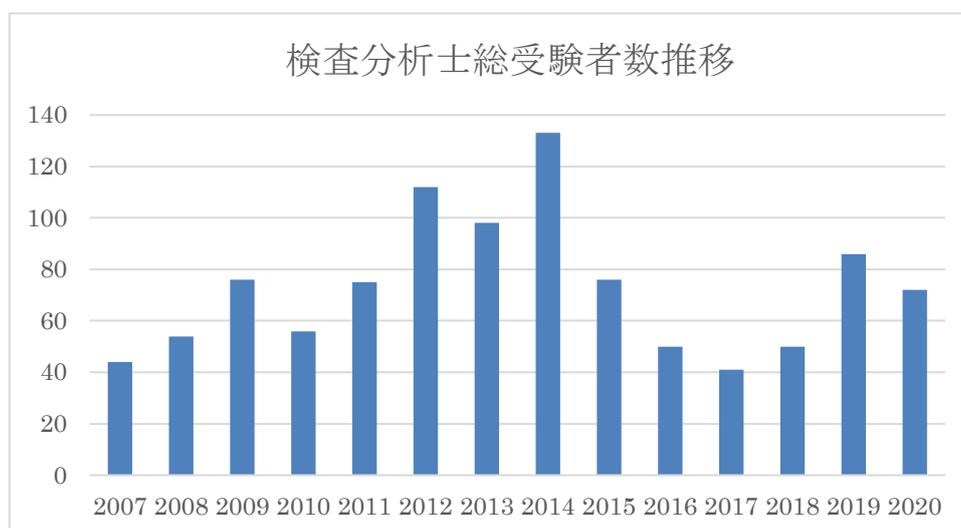
事業報告

I. 人材育成事業

人材育成事業の活動は当法人のビジョン「分析技術を担う、世界に通用する人材の育成」を目指して実施しています。

1. 資格認定事業

検査分析士と検査分析士マーケティングエキスパートの初級と上級の一斉試験を2020年7月18日の午後、昨年と同じように東京、名古屋、大阪、仙台、福岡の5都市で行いました。感染症のために自粛される方も多く受験者は例年の約半数の初級17名、上級3名で、検査分析マーケティングエキスパートの受験者は皆無でした。半面、感染症対策がやりやすい検査分析士初級資格の団体試験の受験者は大幅に増えて合計27名となり、また14名が来年度にかけて受験をします。2年目となる名城大学の大学課程履修での合格者は15名でした。また、合格者が所属する検査分析士会の研修会はCovid-19感染症の蔓延防止のため中止としました。



2. トリニティースクール事業（講習会・通信教育事業）

講習会は当初は緊急事態宣言が解除後の6月に再開する予定でしたが、感染が収まらず、1年間、開催中止を余儀なくされました。代替案となるインターネット経由の講習会開催も準備が出来ませんでした。これに対して通信講座は9月以降に受講者が増加し、検査分析士資格試験支援講座の受講者と合わせて延べ10人を超えた受講者が集まりました。

II. 振興普及事業

振興普及事業の活動は当法人のビジョン「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」を目指して実施しています。

1. ビジネス支援事業

展示会への出展は11月に開催された分析機器の展示会 JASIS 展のみで、3月に行われる予定であった米国ニューオリンズで開催予定の Pittcon2021 はバーチャル展示会となりました。また当初4月に開催を予定された CPhI 展は一度は9月延期となったものの中止となりました。JASIS 展では昨年にかけて、2ブースを使ってアナログ吸光光度計を中心とした展示に資格試験等の活動紹介と北海道大学のベンチャー企業の展示代行を行いました。また JASIS 展に合わせて幕張メッセの国際会議場で「バイオテクノロジー分野の市場開発」をテーマにマーケットトレンドセミナーを開催しました。バーチャル開催となった Pittcon2021 では、毎年行うコミッティーとの打ち合わせをインターネット経由で行いました。

2. ネットバザール事業（通信販売事業）

昨年大幅に受注が増加したアナログ吸光光度計は主な販売先の大学や専門学校で授業がオンラインになったことや、委託先のケニスにおいても販促活動が実施できず、昨年の実績から大幅に減少しましたが、蛍光 X 線分析で使用するプラスチックフィルムの受注が増加し光度計の受注減を。このため供給元と交渉を行い、商品点数を増加しました。また取扱商品の拡充を図るためにホームページの商品掲載欄のページを増加しました。

3. コンテンツ制作事業（出版及び動画制作）

出版する予定の「機器分析の創業者達」の第2版の出版は来年度に延期となりました。動画の制作では11月に行われたマーケットトレンドセミナーの講演を Youtube にアップしました。また、Youtube に掲載している「光を使った定量分析」が龍谷大学の機器分析の実習で活用されました。

4. 簡易機器事業

光度計の販売は振るいませんでしたが、今まで手作りであった光度計を量産化するための試作を行い、製造を委託することにしました。

Ⅲ. 社会貢献事業

日本では「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」のビジョンにそって、タイ国では「分析産業人ネットの慈善活動」で掲げたビジョンに基づいて活動を展開しています。

1. ナーチャー賞エッセイコンテストの開催

今年で12回目となる機器分析に関するエッセイを対象とするナーチャー賞エッセイコンテストは募集を9月に開始し、11月26日に締め切った結果、6件の応募がありました。件数は少なかったものの優秀な作品が多く、受賞者は大賞1名、優秀賞2名、特別賞1名、ステイディオス賞、ファーストペンギン賞各1名とでした。しかし、1月に実施予定だった表彰式は、2回目の緊急事態宣言期間中となり、やむなく中止しました。

2. タイの泰日工業大学の日本語スピーチコンテスト

タイでもCovid-19感染症の流行のために泰日工業大学ではオンライン授業等で学生が構内に集まることが出来なかったためにコンテストは作成したビデオを審査する方式で行われました。日本からのタイ訪問も出来ず、東京でビデオ審査を行い、その審査結果をもとに11月に行われたプレゼンコンテストの表彰式と、2月のスピーチコンテストの表彰式は、ネット経由で日本から参加しました。

3. タイの泰日工業大学学生への奨学金提供

生活支援を目的とする奨学金を今年は、泰日工業大学の2年から4年の学生各2名の計6名の学生に1人3万バーツを支給しました。毎年行っていた6月にPAI-NETの奨学金を授与された卒業生と現在の奨学生との同窓会はタイへ行くことが出来ずに中止となりました。

4. タイの泰日工業大学の日本語科への図書寄贈

泰日工業大学の学生が日本語を履修するために教材を作成するときに参考とする、資料となる日本語教育のための参考書を泰日工業大学の日本語教室の先生方のリクエストにより、調達して寄贈しています。

5. マレーシア日本国際工学院(MJIIT)での日本語スピーチコンテスト

今年度はマレーシア日本語国際工学院への訪問は断念し、スピーチコンテストと同時に行われた15名が参加した川柳コンテストの審査を日本でビデオを見て行いました。

IV. 法人の運営状況

運営に関する業務は暦通りに平日、東京都千代田区の事務所で行いました。

1. 組織

当法人の運営は理事会で経営方針、経営計画等を審議し、各事業の具体的な活動方針は理事と正会員、及び外部の委員も加えた人材育成委員会、資格推進委員会等の委員会で審議し決定します。また当法人の具体的な実務は、理事会等で決められた方針、計画に基づいて事務局で行います。正会員だけでは対応できない一部の講習会・セミナーの講師等については必要に応じて外部に委託または会員以外のボランティアにより実施しました。事業推進センターでは、市場動向調査や知名度向上のための社会貢献活動の企画と運営を行います。

2. 財務

当法人は会員からの会費収入と、当法人が行う事業収入により活動をおこなっていますが、活動を継続することが出来る収入を得ることが出来ないために理事を含めた会員の寄付により補充をしています。外部資金に依存しない活動方針を貫くために、実施する事業で持続可能な収入を得ることが目標です。

3. 投資

昨年から外部委託で実施していたホームページ更新が完了しました。分析産業人ネットのホームページでは項目のページの追加等が9月に、検査分析士会のホームページではCMSの導入とスマホ対応の画面が5月に完成しました。その他には検査分析士会の資格証を印刷するプリンターや市場調査のための資料、光度計量産に必要な機材、ネットバザールのラボ用消耗品に対する在庫投資を行いました。

4. 広報

当法人は広報・販促活動を主にインターネットのホームページと会報発行等による紙ベースの情報発信の組み合わせでおこなっています。当法人発足15年が経過し、今までの当法人の設立の意図や活動内容の紹介が中心の広報から、当法人が提供するサービスを中心とする広報として、当法人のサービスに対する受付や相談、活動に必要となる人材等の応募等に変えています。この方針にそって、今年度はホームページを更新しました。

特定非営利活動法人分析産業人ネット

英文名 Professionals' Net Work in Advanced Instrumentation Society

設立 2004年11月24日

事務所所在地 〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町2-6 淡路ビル4F

電話 03-5294-3115 FAX 03-5294-3344 E-mail info@pai-net.or.jp